

1 自己評価及び外部評価票

【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2070501065		
法人名	特定非営利活動法人 心		
事業所名	グループホーム ころこ		
所在地	飯田市松尾上溝6301番地1		
自己評価作成日	令和5年1月30日	評価結果市町村受理日	令和5年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2070501065-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2070501065-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市東中央通5丁目59番地1
訪問調査日	令和5年3月7日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

ご家族様や入居者様の特別のご意向がない限り、最期の看取りができるようになっていきます。職員とともに生活を苦樂し、入居者様の人生を尊重し、その人本位で生活ができるようお手伝いさせていただきます。

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

令和3年度中に外部評価を予定していたが、コロナ禍のため延期となり、そのさ中グループホームの利用者や職員に感染者が出てきたので訪問調査がぎりぎりの時期となってしまった。保健所の指導の下医師会や市の担当者とも連携し、法人全体の取り組みにより乗り越えてきたことは、大きな経験となってきていると考える。  
まだ面会や外出が制限され、地域との交流もなかなかできない状況の中、このグループホームが掲げる「共に 笑い、楽しみ、悲しみ、生きる」という理念を職員みんなで理解し、利用者職員とが本当の家族の一員として過ごしていることが、訪問調査を通して良くわかってきた。一緒に過ごしてきた利用者を看取る時には、職員が家族とともにエンゼルケアを行い、最期を見送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名( )		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拉がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

グループホーム ころこ  
(別紙)  
自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価 実践状況	外部評価			
	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容		
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1 (1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム内の目につく場所に理念の文言を掲げ、理念に基づいた生活が日々送れるように努力しています。	このグループホームの理念「共に生きる」とは、「利用者の最期まで看取る」という意味を含んでいることが職員全員に浸透している。亡くなられた利用者にはエンゼルケアを家族と一緒にしたり、退所する利用者には利用者全員でお別れをしたりして、心を通わせている。	
2 (2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、現在は地域への外出等ができなく、交流が少なくなっています。コロナ感染が治まれば、以前と同様に交流を続けて行きたいと考えています。	コロナ禍のため、地域の行事への参加やボランティアとの交流、中学生の福祉体験の受け入れなどができなくなっているが、近所の方とのつきあいは続けられている。お茶を飲み立ち寄ってもらったり、果物の差し入れをしてもらったりしている。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため、現在交流が少なくなっていますが、これまでの活動の成果なのか、以前よりは近所の方々の理解が広がっているような感じがしています。		
4 (3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の現状を伝え、運営推進委員の意見をいただいています。そして、指導していただいた際には深く受け止め、サービスの改善に努めるようにしています。	5月に第1回の運営推進会議を開くことができたが、コロナ禍のため、その後の運営推進会議は書面での会議になった。書面を送って報告し、電話で助言や意見を聞き取るようにしている。	
5 (4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告等の提出などがあった際には、市と情報を共有できる体制を築いています。	利用者と職員のコロナ感染のため、保健所に報告したり、医師会からの助言を受けたり、市民病院の看護師の指導を受けたりして、既往症のある利用者は入院したが、その他の利用者は居室での対応を行ってきた。防護服・シールド・キャップ・手袋などの感染予防の支援を受け、配布された検査キットで検査して、感染状況を把握し、解除に努めてきた。	
6 (5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在も拘束をしない介護ができるよう、日々努めています。今後、拘束が必要な場合は、家族と相談の上、必ず同意書をとるようにしています。	基本的に、身体拘束をしない実践を目指している。現在、身体拘束をしている事例はない。徘徊する利用者があるが、玄関のセンサーコールに頼らず、職員の見守りを徹底している。	身体拘束適正化に向けた指針を作成し、身体拘束適正化委員会を組織するようになりたい。
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修会等の参加の機会を活用し、その情報を職員会議等で共有して、虐待があった場合にはすぐ対応できるように努めています。		

グループホーム ころ

自己	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現段階で成年後見制度の希望されるご家族様が1組いて、その制度に対する知識や必要性等を職員会議で話し合っています。また、ご家族様とも話し合い、活用できるように勧めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前から、生活及び退所、また、ターミナルケアなどを説明し、ご家族様が納得されてから入所に至ります。ターミナルケアに関しては、ご家族様が最期をどこで看取るかの選択肢も踏まえ、説明させていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	まだ家族会を組織できていませんので、ご家族様全員に運営推進会議の案内を出し、出席をお願いしています。運営推進会議の中で、意見や要望を聞いて、運営に反映できるようにしています。	家族会を組織しようと考えていたが、コロナ禍のため頓挫してしまった。このような状況で、なかなか家族の意向や希望を聞いて実現することは難しい。利用者とは行いたいレクレーションや食べたい物などを聞き、職員と一緒に楽しんで会食を行うようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が職員との関りを大切にして、職員からの意見や要望の話があった際はよく聞き、必要であれば理事長に進言できるようにしています。	毎月第2週の火曜日に職員会を位置づけ、運営やケアについて話し合っている。職員から、レベル低下の利用者に対するケアについて積極的に意見を出し合っている、という話を聞くことができた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アンケート形式の自己評価を通して、自己研鑽をしてもらい、向上心を持って就業できるように働きかけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議や日々の打ち合わせの中で、職員の介護力の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在コロナ禍のため、研修会などや圏域のグループホームの集まりが開かれなくなりました。同一法人内のグループホームとは連携してサービス向上への取り組みを行っています。		

グループホーム ころ

己自部外	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様やご家族様の要望などをしっかり聞いて関係づくりに努め、グループホームでの快適な生活が送れるように支援しています。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思いをしっかり聞き入れ、入所後に不安が残らないような関係づくりに努めています。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の負担が軽減できるように、他のサービスの利用も踏まえ、細かい助言ができるように努めています。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が職員と一緒に苦楽を分かち合うことを大切に、共に楽しく暮らしていけるような関係を築いています。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と同じ思いでご本人様に寄り添い、ご家族様とともに支えていくことができるような関係を築いています。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、これまでのような外出や面会をお断りしていますが、関係者の訪問などでは、窓越しの面会や電話での対応等で柔軟に対応させていただいています。	コロナ禍のため、家族との面会は玄関外の駐車場で行ってきた。また、親戚、友人・知人の面会は原則はなしで、電話やテレビ電話で行うようにしてきた。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様がお茶や食事を一同にとり、互いが話し合える時間や空間をつくり、皆様が一緒に過ごすことができるようにしています。		

グループホーム ころ

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様のプライベートに関わることで、こちらから積極的には対応はしませんが、相談などあった場合には支援させていただきます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の意向を念頭に、ご本人様に合った介護や援助ができるように検討し、介護計画を作成するようにしています。	これまでの家族からの聞き取りや状況提供書などを基に、利用者の希望や意向の傾向をとらえ、利用者一人ひとりの「介護記録」の昼間、夜間、医療・看護の記録などと照らし合わせてアセスメントするようにしている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族様からの聞き取りにより把握するとともに、性格や行動等の経過を見て、ご本人様の状態を把握しています。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェックをしたり、顔色、排便、会話の様子などから体調の状態もチェックし、入居者様の心身や現状の把握に努めています。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開き、ご本人様とご家族様の意向を踏まえた介護計画書を作成し、また、見直しを行っています。	ふだんから職員が生活をともに観察したり、「介護記録」の記録などを検討したりして評価をしている。サービス担当者会議を通してモニタリングし、利用者や家族の意向を踏まえた介護計画を作成し、見直しをしている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の「介護記録」の記録から入居者様の状態を把握し、職員間で共有して実践に活かすことができるよう努めています。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の病院への送り迎えや訪問マッサージなどのサービスができるように支援しています。		

グループホーム こころ

自己	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため、ボランティアなどの関りが現在減少しています。このような状況でも、これまでの関係を活かし、これからも支援できるように努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医に往診等をお願いしています。入居者様に病変がみられた場合には、かかりつけ医と相談し、臨時的往診や訪問看護を受けたりできるように支援しています。	利用者それぞれのかかりつけ医が月1回の往診を行っている。コロナやインフルエンザのワクチン接種もお願いして、連携して対応している。コロナ感染の折には、市民病院の看護師の適切な助言もあった。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の准看護師と、かかりつけの医院の看護師と相談しながら、適切な受診や看護ができるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐため、医師や看護師、病院の相談員との連絡をとり、早期退院ができるように話し合いなどをさせていただいています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時から終末期の話をさせていただいています。入居者様の状態の急激な変化があるときは、そのつどご家族様の意見、意向を聞き、グループホーム内で十分な介護ができるように支援しています。	基本的に、このグループホーム内で看取りまでできることを入所の時から話し合っている。その後の利用者の状態の変化で、家族の意向を踏まえた対応ができるようにしている。この期間、利用者1人の看取りを行ってきた。また、利用者の重症化が進み、車椅子利用者が6人、歩行器利用者が1人いる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍のため、これまで開催されていた救急救命の講習などが開かれなくなったので、参加していません。しかし、コロナ感染によって、救急の対応の仕方を身につくことができました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2月に、連絡網を使用して夜間における通報訓練を行ってきました。	2月に連絡網による通報訓練は実施できたが、7月に同一法人内のグループホームとの合同水防訓練の実施は、コロナ感染のため中止になった。今後もハザードマップにおける水害に留意して訓練を計画する予定である。	

グループホーム ころ

自己	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様を人生の先輩として敬い、尊敬をもって接するよう心がけ、声かけや振る舞いなどに注意して接するようになっています。	職員の都合によるような言動を慎み、利用者本位で、利用者が自己選択し、自己決定できるような言葉かけに留意している。そして、家族の一員の大切なおじいさん、おばあさんとして、自然に振る舞うようになっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に自己選択ができるように声かけをし、ご本人様が自己選択できるように留意しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の個々の好みや、食べることに注意しなければならない物などを把握して、日々楽しい食事が提供できるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今の時代に合った服装をしたり、ご本人様の希望にかなった服に着替えたり、お化粧品したりすることができるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じて、その時の旬の物を食材として提供しています。	その当日の冷蔵庫の中にある食材を中心に、買い足したりしてメニューを工夫している。利用者と一緒に下ごしらえをしたり、食事の準備をしたりして会食ができるように努めている。季節や行事の変わり目には、旬の食材を使い、変化のある料理と一緒に楽しく食べるようになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常食だったり、ペースト食にしたりして、入居者様個々に合った食事形態で提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後などに口腔ケアをしています。入居者様には必要に応じて、歯科診療を行うように支援しています。		

グループホーム ころ

自己	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員間で情報を共有して、入居者様の合ったトイレの時間やおむつの交換の時間を考慮して、トイレ誘導をするなどの支援をしています。	布パンツ利用者1人、リハビリパンツ利用者5人、おむつ利用者3人とそれぞれの利用者に合わせて、支援を行っている。介助なしで自立で排泄する利用者は3人と少ないが、排泄チェック表を活用して声かけをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の他にも水分摂取することを勧め、便秘の予防に取り組んでいますが、入居者様の中には医師から処方された便秘薬などを使い、排泄がスムーズにできるように支援をする方もいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的な時間帯(午後)で入浴を実施しています。週2回入浴ができるよう調整しながら支援します。	入浴を拒みがちの利用者にはタイミングを図ったり、日時を変えたりして入浴を勧めている。しかし、シャワー浴の利用者が3名いるので、冬場は脱衣所を暖めて、介助を受けながら入ってもらうようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室以外の場所でも、入居者様が居心地の良い場所で休息を取りたいと希望するときには、畳のある場を提供して眠ってもらうようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の服薬リストを「個別のファイル」に添付し、職員が閲覧し、確実に誤薬のないよう支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特技のマッサージ、得意の歌や塗り絵等、入居者様の一人ひとりのできることを対して、支援していますが、強制は行っていません。自主判断でお願いしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現在、外出したり、面会したりすることは制限している現状です。しかし、中には100歳のお祝いをしたいとの申し出もあり、外泊を許可するなど柔軟に対応しています。	春先は桜や花桃の見学ができたが、コロナ禍のため、外出を制限せざるを得なくなった。それでも、帰宅願望の利用者をドライブに連れて行ったり、他の利用者と近くのスーパーマーケットと一緒に買い物に出かけたりして、柔軟に対応できるように努めている。	



グループホーム ころ

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	これまで金銭を持たれていた入居者様もいましたが、現在いません。自己管理できる方であれば支援する予定です。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎週電話をかけてくるご家族様には、入居者様に電話に出て話をさせていただいたり、手紙送って来られるご家族様には職員がご本人様の言葉を聞いて代筆し、手紙を送ったりするなどの支援しています。		
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	5年前に改修工事を行った結果、共用空間にこれまでのような圧迫感がなくなり、開放感が感じられ、明るい生活が送られるようになりました。	5年前の改修工事で、2階の居室を1階に移し、車椅子でスムーズに移動できるように食堂や居間などを拡張してきた。しかし、重度化が進み、車椅子利用者が6人と増えてきたため、畳の間を改修して、食堂や居間を広くする予定である。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りの方がいいと思う入居者様と、人と接する方ががいいと言う入居者様を、職員は理解し、柔軟に対応して支援しています。		
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドで過ごしたいとか、畳で過ごしたいとか言うご本人様の希望や意向にそって、居室の空間づくりを行っています。	利用者の希望や意向によって、鏡台やテーブルを置いたり、テレビを設置したりして過ごしやすい居室になっている。また、転倒予防のために、フットコールを設置している利用者もいる。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今のできるという状態を維持しつつ、ご本人様が納得できる日々が送れるように支援しています。		